

留意すべき点

- 1、ラフ出しのアプローチも、普通のショットと同じで手打ちはいけません。胸、肩、腰、ヒザを回転させて打つ意識が大事です。
- 2、カップインできれば一番良い結果ですが、カップを中心に1mほどの円を想定。その中にボールを入れるイメージが大事です。
- 3、グリーン回りのアプローチでの大振りは禁物です。右ヒジの支点を身体の近くにしてインパクトゾーンを中心とした方向性と距離を重視したアプローチが大事です。
- 4、かぶせ打ちA、かぶせ打ちBとそれぞれキャリーとランの対比は違います。



かぶせ打ちA キャリー3分の1、ころがし3分の2



かぶせ打ちB キャリー5分の1、ラン5分の4



フォロー打ち 3分の1を上げ、3分の2を転がしています

私の場合ボールの位置、ライ角度の取りかたにより違いますが、基本ベースのかぶせ打ちAは、キャリー3分の1、ころがし3分の2、かぶせ打ちBは、キャリー5分の1、ラン5分の4で考えています。
(例)グリーンまで3mでかぶせ打ちAで打つ場合1mにキャリーさせ2m転がします。
グリーンまで10mの場合、打ち方はかぶせ打ちBでキャリー2mラン8mです。ここで、1番重要なことは、キャリーさせる場所を設定したらカップを見ないことです。キャリー地点(落とす場所)だけ見てそこにボールを打てるように集中しましょう。カップを見てアプローチするとオーバー、ダブルなど失敗することが多いようです。

5、フォロー打ちもラフの長さ、距離、ライ角度のつけ方等により違いますがキャリーとランの対比は3分の1がキャリー、3分の2がランと考えてプレイしています。経験論から、この打ち方の距離感はテイクバックの大きさで決めるよりフィニッシュ位置で距離感を決めるほうが成功率は高くこれを実践しています。

6、フォローアップパー(ロブショット)打ちの場合、普通はキャリーとランの対比は2分の1ずつで考えています。グリーンまでのラフの距離が長い場合はクラブのライ角度をより2時以上大きくしてキャリー3分の2、ラン3分の1で打つ場合もあります。距離感はフォロー打ちと同じくテイクバックで距離感を計算せず、フィニッシュ位置で距離を決めています。